

# 平成23年度病害虫発生予報第1号

平成23年4月4日  
愛知県

## 1 普通作物

コムギの生育は平年よりやや遅く、今後気温が平年並に推移した場合、イワイノダイチは4日、農林61号は1～2日、出穂期が遅くなると予測されています。赤かび病感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。防除適期を逃さないようにしましょう。詳細は本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないよう管理しましょう。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

## 2 果樹

落葉果樹の生育は、地域や品種によりばらつきも見られますが、昨年より1週間程度遅れている状況です。生育ステージに合わせて適期防除を心がけましょう。

モモでは、せん孔細菌病の発生が懸念されます。昨年発生が多かったほ場では薬剤防除を徹底し、春型枝病斑は見つけ次第、取り除きましょう。

ナシ黒星病、ナシ赤星病やブドウ黒とう病は、春季に降水量が多いと発生が多くなります。昨年発生が多かったほ場では、特に注意しましょう。

チャバネアオカメムシは、越冬密度調査の結果から果樹園への飛来数は6月末まで少ないと予測しています。詳細は本日発表の「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

フェロモントラップの誘殺状況からナシヒメシンクイ越冬成虫の発生は、平年より遅れていると思われます。成虫はこれからモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させますので、フェロモントラップの誘殺状況などを参考に適期を逃さないように防除しましょう。

## 3 野菜（露地）

タマネギのべと病は、気温が高く降雨が続くと増加します。発生を確認したら直ちに防除しましょう。

## 4 野菜（施設）

気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが増殖しやすくなります。タバココナジラミの防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の発生を防ぎましょう。また、収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してコナジラミ類を死滅させましょう。

ナスやキュウリではミナミキイロアザミウマの発生が多い状況です。キュウリではミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）の発生も多くなっているため、防除を徹底しましょう。

イチゴでは、灰色かび病の発生がやや多くなっています。施設内の換気に努めるとともに、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。また、ハダニ類の発生が依然多い状態が続いています。薬剤を用いて防除する場合は、天敵、ミツバチ等への影響日数および使用回数に注意し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布しましょう。

## 5 花き

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

## 普通作物

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない	-
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない(平年並)	±
	赤かび病	やや少ない (やや遅い)	全域	4月の降水量は少ない 生育はやや遅い	-

## 果樹

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	全域	越年罹病葉率は平年並 4月の降水量は少ない	± -
ナシ	赤星病	やや少ない	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は少ない	± -
	黒星病	やや少ない	全域	前年秋の発生量は平年並 4月の降水量は少ない	± -
モモ	せん孔細菌病	<b>やや多い</b>	全域	前年の発生量は多い 4月の降水量は少ない	+ -
	灰星病(花腐れ)	やや少ない	全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量は少ない	± -
	モモハモグリガ	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない 4月の降水量は少ない	- -

### ・ 防除対策

#### 〔モモ・せん孔細菌病〕

開花直前にデランフロアブルやICボルドー412などで防除しましょう。また、春型枝病斑は見つけ次第除去し、落花後にビスダイセン水和剤やチオノックフロアブルなどで防除しましょう。

## 野菜

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量は少ない	± -
トマト (施設)	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は多い	± -
	コナジラミ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ハモグリバエ類	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	+
ナス (施設)	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は多い	- -
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	+
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は多い	± -
	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は多い	- -
	ミナミキイロアザミウマ	多い	全域	3月下旬の発生量は多い	+
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は多い	+ -
	ミカンキイロアザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	+

・ 防除対策

〔トマト(施設)・ハモグリバエ類〕

トリガード液剤、プレオフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

プレオフロアブル、ダントツ水溶剤などで防除しましょう。

〔キュウリ(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

黄化えそ病の原因ウイルス(MYSV)を媒介するので、ハチハチ乳剤、ダントツ水溶剤などで防除を徹底しましょう。なお、黄化えそ病発病株は伝染源となるので、早めに抜き取り、適切に処分しましょう。

〔イチゴ(施設)・ミカンキイロアザミウマ〕

カスケード乳剤、マッチ乳剤などで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮に入れて薬剤を選定してください。

参考

発生量及び発生時期の基準

発生量	平年並 やや多い やや少ない 多い 少ない	平年値を中心にして40%の度数に入る幅 平年並の外側20%の度数に入る幅 同上 上記三者の外側10%の度数に入る幅 同上
発生時期	平年並 やや早い やや遅い 早い 遅い	平年値を中心にして前後2日以内 平年値より3～5日早い 平年値より3～5日遅い 平年値より6日以上早い 平年値より6日以上遅い

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台4月1日発表）

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の降水量は、少ない確率が50%です。日照時間は、多い確率が50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

〔気温〕 低い：30% 平年並：40% 高い：30%  
〔降水量〕 少ない：50% 平年並：30% 多い：20%  
〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ高気圧に覆われやすく晴れの日が多い見込みです。

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。  
農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。  
農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないように  
しましょう。  
農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。  
農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。